

第6学年 総合的な学習の実践

- 1 活動名 番組を作ろう (全20時間)
- 2 活動目標 番組作りを通して、作り手の思いや大変さに気付く。
自分たちが作りたかった番組を、見る人のことを考え工夫して制作する。
- 3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ 「仲間への理解、自立する自分」

・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切に作る姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

〈聴く・話すについての指導〉

たくさんの子どもの考えが聞きたいと、意図的に声を出す場を作ってきた。その一つがペアトークで、算数や社会など自分の考えを相手に説明する場を設けてきた。また、相互指名を取り入れることもある。この場合、教師が指名するよりも、たくさんの子どもの考えが出ることが多い。また、話し合いの時には、机の配置を変え、友だちの顔が見えやすいようにしてきた。

「聴く」については、教師と子どもだけのやり取りにならないように、「今の考えどう?」「今のどういう意味?」など、友だちの考えを子どもに返すようにしている。反応がない子もいるので、うなずきやつぶやきを積極的に認めている。

〈関わり合い・ひびき合い〉

社会の学習で、活発に意見が出て、友達の考えにつなげて発言することが多い時がある。それはまず誰もが発言できるような共通した課題で、また答えが簡単に出ない場合である。つまり話し合いたい内容なのだと思う。すべての時間には難しいが、子どもが話し合いたくなるような課題を提示するようにしてきた。

4 活動と指導

〈活動について〉

「番組を作ってみよう」という考えはある子どもの一言からクラスに広がった。現代社会の中で、子どもたちはカメラ、スマートフォン、テレビ、パソコンなどたくさんの視聴覚機器にふれる機会があり、カメラで写真や動画を撮ることを、体験したことがある子が多い。また、ユーチューブでは、誰かが撮った映像を、好きな時に何度でも見ることができる。ユーチューバーといわれる人がいるように、自分が作ったものを簡単に他の人に見てもらえる環境がある。つまり以前よりずっと、見る側から見せる側に立つことが、簡単になってきている現状がある。

「番組を作る」には、何を撮るかを決める、取材する、映像を撮る、インタビューする、編集するなどたくさんの工程があり、多くの人に関わって作られている。たった数分の映像を作るだけでも、たくさん時間をかけて取材し、それを視聴者にわかりやすく編集し放送する。そこまでして番組を作るのは、作り手が持つ伝えたい思いがあるからだ。自己満足ではなく、作り手のコンセプトに沿って作られている。

子どもたちが普段見る、NHK、日本テレビ、フジテレビなどの番組の多くは、小田原から遠く離れた場所で作られている。そのため、番組を作っているところを見ることはできない。しかし、地域に根ざしたTV局がある。地域にあるTV番組を製作するプロの方々の話を聞いたり、制作現場を見たりすることは、子どもたちにとってとても有益な経験になると考える。

番組を作るには、相手(視聴者)を想像しながら、自分たちの伝えたいことが伝わるように制作していかなければならない。そのためには、たくさん話し合うことや工夫することが必要になり、総合的な学習として扱う価値があると考えられる。

〈指導について〉

子どもたちの関心があることから、テーマ作りを行っていった。なぜそのテーマでやりたいのかなど、クラス

で話し合いながら、テーマの方向性を決めていった。テレビやパソコンで誰かが作ったもの（番組）を見ることはたくさんあるが、実際に自分が作った経験はほとんどない。一方で将来の夢がユーチューバーという子がいるように、映像を編集して見せたいと興味を持っている子は、関心度合に差はあるもののクラスの中に結構いる。そこで漠然と番組作りをしてもいいかなという思いから、さらに気持ちが高まっていくよう、本物（プロ）と出会うこととした。プロの仕事ぶりや仕事に対する思いを聞くことで、自分たちも作ってみたいという気持ちが高まっていくだろう。そこで何を題材に番組を作っていくのかを話し合う。「自分たちが作りたいもの」と「何のために作るのか」ということを考えていくことが、この後の活動に大きく関わっていくので、じっくりと話し合いたい。内容が決まれば、役割分担をして番組作りを行っていく。グループに分かれても、困っているところを共有しながら全員で制作していくように指導していく。

地域のTV局に出かけ、実際に編集する機械やニュースを読む場所を見学して、番組作りをしたいと気持ちが高まった。子どもの中には、実際に取材したいものが浮かんできていた。しかし、どんな内容の番組を作っていくのかは、個々の子どもの中に漠然とあるものの、クラスでどんなことをするかは決まっていなかった。そこでどんな内容の番組を作っていくのかを話し合っていく。内容の決定については、「ただやりたい」ではなく、「だれに向け」、「どうしてその内容なのか」というような視点を大事にして、話し合っていく。地域のTV局のコンセプトは「地域を活性化する」ことであったが、子どもたちにも視聴者を意識した番組作りになるように指導していく。

本時まで、子どもそれぞれがどんな番組を作りたいか、考えを持つようにする。その考えを発表しあうことでより自分たちが作りたいものを練り上げていくことをひびき合いとする。最初は「ただやりたい」だったものが、どういったものがふさわしいかを考えていくことで、徐々に自分の考えを再構築していくところを「ひびき合い」の姿にしたい。

5 活動構想 総合「番組を作ろう」全20時間

活動目標

- ・番組作りを通して、作り手の思いや大変さに気付く。
- ・自分たちが作りたいと思った番組を、見る人のことを考え工夫して制作する。

テーマを決めよう③

活動時間が限られていること
多くの時間がかけられないことを確認する。

- ・地域を活性化したいな。 ・コラボ商品を作って、募金したい。
- ・いじめの劇をやって、メッセージを伝えたい。 ・番組を作りたい。
- ・学校や先生に感謝の気持ちを伝えたい。 ・番組って本当に作れるの？ ・番組作りしているところを見てみたいな。

TV局に見学に行こう②

自分たちがやりたいもの
自分たちを含め人のためになるもの
やる価値のあるもの

- ・編集って大変だ。 ・カメラを動かすと楽しいな。
- ・役割分担があるんだ。 ・画面に字を入れるのも楽しいな。
- ・番組が作りたくなってきた。 ・どんな番組だといいいかな？

総合のテーマを決定しよう①

- ・見学に行って、自分たちも番組が作りたくなった。 ・番組作ろうよ。
- ・番組内容を決めよう。 ・役割分担も大事だって言ってたよ。

誰に紹介するかにより、伝え方や内容が決まってくる。

どんな番組にするか話し合おう①（本時）

- ・学校の周りを紹介する。・学校を紹介する。・お笑いがいいかな。
- ・「歴史にドキリ」みたいなものもいい。・小田原を紹介するものもいい。
- ・誰に向けて紹介するの？・いつ番組を見せればいいのか。

地域を紹介する番組を作ろう

地域の何を紹介するか考えよう①

- ・学校を知らない人に向けて
- ・卒業生とかも見たいかも
- ・新1年生に
- ・家族にも見せたい。

- ・小田原の知られていないところを紹介しよう。
- ・歴史がいいと思う。 ・名物も紹介したい。
- ・水産業もいいんじゃない。 ・伝統工芸もいいと思う。

完成までにどんなことをしないといけないか、計画を立てよう①

- ・役割分担 ・取材 ・原稿作り ・撮影 ・練習

番組制作をしよう①

- ・構成を考えよう。・取材をしよう。・編集しよう。
- ・テロップを考えよう。・分からないことを相談しよう。

わからないところは、話し合っ解決していく。
地域のTV局の方とも連絡とり、必要に応じて協力していただく。

完成した物を紹介しよう①

6 本時について

学習活動	主な支援・留意点【評価】
<p>1. 友だちの考えを見て、質問したり、意見したりする。</p> <p>2. どれか番組の内容にふさわしい話し合う。</p> <p style="text-align: center;">作りたい番組の内容を決めよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>知らない小田原の世界</p> <p>・地元で知らないものを紹介する ・<u>似ている</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>トーク番組</p> <p>・トークをするのがおもしろそう ・<u>相談する番組</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>バラエティ</p> <p>・見た人に喜んでもらいたい ・自分たちでやるならやりやすい</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>小田原を紹介する</p> <p>・かまぼこができるまでの紹介 ・観光客が少ないからPR ・地域の活性化につながる ・将来につながる ・特産物の紹介(いろいろ、かまぼこ) ・小田原城などの名所 ・自分たちも詳しくなる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>三の丸の紹介</p> <p>・これから役に立ててもらいたい → 役立てる? ・良いところ、スローガン</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>小田原の歴史</p> <p>・小田原城やゆかりのある武将の紹介</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>歴史にドキリ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>スポーツの仕方を教える</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>ニュース番組</p> <p>△一回で活性化につながるのか</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>クイズ番組(小田原編)</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの考えを一覧にしたものを準備し、誰がどんな考えを持っているか分かるようにする。 ・配られた一覧に自由に記入する。 ・よく分からないものやもっと詳しく知りたいものは質問して、分かるようにする。 ・理由を明確にして話す。 ・地域のTV局の方々に「地域を盛り上げる」というコンセプトがあったこと思い出す。 ・話が連続すれば、ヘアトークなど近くの人と話をする。 ・「いつ見てもらうのか」「誰に見てもらうのか」「どういう良さがあるか」を視点として持てるよう助言する。(具体的なイメージが持てるようにする。) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>◇友達の考えを開き、より良いテーマになるように考えを深めることができたか。 【思考・表現】(行動記録・記録分析)</p> </div>

7 実践を終えて

(活動の作り方について)

前項でも記したように、番組を作ってみたいという声からクラスの思いが広がっていった。子どもたちが、何となくは分かるが、よく分からないことをすることや、関心のあることに取り組むことは、意欲が続いたことにつながったように思う。一方でどういった番組の内容にするかを定めることは、大変苦労が多かった。それは番組作りありきで始まり、「何のために作るのか」「誰に向けて作るのか」といったコンセプトがなかったためである。番組作りは、目的を達成するための手段の一つであるという視点が最初になかったため、後付けのように内容を決めていった。どんな内容にしていくか、子どもたちの思いがそれぞれ違っていたので、クラスで内容を一つに決める段階で一人ひとりの思いが叶わないと感じたことで、意欲がなくなったように感じた。

また、番組内容について、担任としては「学校を紹介するもの」を考えていた。取材等がしやすいことや個人情報観の観点からもふさわしいと予想していたが、子どもたちは「地域を活性化するもの」に気持ちが向いていった。それは、学校のことはもう知っていることが多いし、番組はもっとたくさんの人に見てもらいたいという意識もあった。加えて何より地域が好きであるということがあったように思う。作成は大変になるが、子どもの思いを尊重し、地域を紹介する番組作りに流れていった。

(成果と課題)

成果としては、子どもたち自身が自分の地域の良さに改めて気づくと同時に、郷土に対する愛が深まったことだと思う。何を紹介するか話し合ったとき、建物や場所の名前は出てくるが、なぜそれが魅力的なのか語れる子はほとんどいなかった。活動を進める中で、歴史や特産物など地域ならではの良さを再発見していくことができた。また、取材や制作を通してたくさんの方々から協力をいただき、地域の人々の温かさを感じることができたように思う。番組制作のプロの方と一緒に活動することで、子どもたちは仕事の面白さや大変さを直に感じることもできた。社会に出る前に実際に働きぶりを目の当たりにし、子ども一人ひとりが将来を考えることにもつながったように思う。

課題としては、時間の確保である。番組としては時間をかければ、より良いものが出来上がっていくが、決められた時間内に行うことや学校外の方々とう会うには、時間の調整が大変になるということだ。もちろん子どもたちだけで自由に取材にいけないこと、編集など学校内では難しい作業を行うことは、制約が多くなることにつながってしまった。

授業では、子どもたちが良く発言し、誰の意見も大事にできる姿があった。一方で出口のない問題であるかのように、話し合ってもなかなか子どもたちの考えが一つになっていかないような話題で話し合ってしまった。それは「誰に向けての番組なのか」「どういった目的で作るのか」というような条件がはっきりしていなかったため、理由づけて絞っていくことが難しかったからだと思う。教師が先の見通しを持ち、準備をもっと行わなければならなかったと思う。総合は子どもたちの思いが入りやすい分、どんな方向にも進む可能性があるし、広がり過ぎてしまうことがある。教師が他の教科より見通しをもって進むことが必要だと思う。